

## 駿河山遺跡発掘調査について

資料2

委託名 令和元年度牛尾山地区工業用地整備事業駿河山遺跡埋蔵文化財調査務

期間 令和元年12月1日～令和3年2月28日

事業主体 内陸フロンティア課

### 概要

駿河山遺跡は、通称「牛尾山」と呼ばれる台地先端部全体が遺跡として登録されている。本田山遺跡・奥原遺跡・中原遺跡・東原遺跡など遺物の採集された地点別に分散していたが、「駿河山遺跡」として集約されている。遠江考古学会の後藤武蔵氏や加藤賢二氏らにより積極的に遺物が採集され、一部が金谷小学校に展示されている。また、『森町考古14』など専門誌にも紹介され、縄文時代中期後半・弥生時代後期の遺跡であることが知られるようになる。

昭和57年8月、茶園改植に伴い南側縁辺部に分布する「駿河山古墳群」のうち、2号墳が発掘され、6世紀後半から7世紀前半にかけて4回にかけて追葬されている古墳であることが判明した。

平成10年から平成13年にかけて、新東名建設に伴い大規模に発掘調査が行われ、縄文時代中期・弥生時代後期の住居跡が多数検出、西側には「方形周墓」から古式古墳に移り変わる様子がうかがえる。縄文時代の翡翠装飾品や弥生時代の大型建物跡などの発見は、この地域を代表する拠点集落であったことが想像されるものである。

今回、北側半分を企業誘致のため発掘調査を実施している。事前の調査では、西側半分に遺跡が分布するが想定されるが、詳細な確認調査を実施しながら、遺構が確認された時点で拡張して調査区を設定し随時発掘調査を実施している。現在、AからE地区を設定しD区まで調査を完了、弥生時代の方形周溝墓を数基検出している。特にD区では、直径20mの円形周溝が検出され、初期古墳あるいは中期古墳か検討中である。市内の古墳は9割が後期古墳であり、前期・中期古墳は古墳の変遷を知るうえで大変重要な資料と言える。